



ア カップ オブ ウォーター

a cup of water ニュースレター

私達はキリスト教精神に基づき、世界の困難な状況にある子ども達を支援する NPO です。

NO. 5 2010年8月

支援者の皆様へ

かけがえのないご支援に心から感謝します。

皆様のご支援が、タイやカンボジアで子ども達のためにどのように用いられているのか、なんとかしてお伝えしたい……。いつもそう願っていました。

6月にハッピーホームの創設者であり、責任者であるローズさんが、タイより日本を訪問して下さいました！ハッピーホームの働き、そして皆様のご支援を通して、子ども達がどのように守られ、育てられ、祝福されているのかを知る素晴らしい機会となったことを感謝します。



「私が今回日本へやってきたのは、皆さんにお礼を言い、支援者の皆さんや教会の方々がハッピーホームの働きを支えて下さっていることに感謝を示したかったからです。」

～6/5(土) ローズさんによる報告会より～

カンボジアの売春宿では12歳にも満たない多くの子ども達が、働かされています。ローズさんによると、そのような子ども達は近年増え続けているそうです。

「どのような子ども達がこの様な悲惨な状況に陥ってしまうのか、皆さん分かりますか？ 調査によると、それはストリートチルドレンや孤児、虐待されている子ども達です。私達はこのようなことが決して起きて欲しくないのです。神様は子ども達を愛し、その人生に計画を持っていらっしゃるのです。」



アメリカ人のローズさんは、今から30年前に単身でタイへ渡りました。スーツケース2個と段ボール1箱、ローズさんを月5000円ずつ経済的に支援してくれる友人が2人いただけだったそうです。今では、タイに4つの孤児院と1つのベビーホーム、そしてカンボジアに1つの孤児院があります。合計、150人程の子ども達が危険にみちた環境から救いだされ、ハッピーホームで育てられ、また学校に通い学んでいます。

～ハッピーホームに新しく来た、2人の子どものお話～

「タイのチェンセンにあるベイビーホームに、リアちゃんという11か月の女の子が来ました。母親は3・4か月前に亡くなりました。父親はひどく落胆し、仕事にも行かず、何もせずに過ごしていました。そしてある日、幼いリアちゃんをハッピーホームへ連れてきました。5歳のお姉ちゃんは別の人に引き渡しました。悲しいことに、その後父親は自らの命を絶ってしまったのです。この幼いリアちゃんには母親も父親もいません。けれどもイエス様は彼女を愛し、ハッピーホームへ導かれたのです。リアちゃんがハッピーホームに来てから2週間になります。」

「カンボジアのポイペトホームに小さな男の子がやってきました。彼は5歳ですが、刑務所の中で生まれ育ちました。彼がお腹にいる時に、母親が懲役20年の判決を受け、刑務所に入れられたのです。彼の父親はすでに亡くなっています。男の子が刑務所の中で成長することを母親は望まなかったため、男の子はハッピーホームへやってきました。最初にハッピーホームに来た時、男の子は刑務所の外の世界を全く知りませんでした。彼は他の子ども達に初めて出会いました。ハッピーホームにある車も初めて見ました。



私は彼を連れ、車で市場に行きました。男の子にとっては何もかもが初めて見るものばかりで、全てのものに興味を示しました。でも、彼は「学校には行かない」と言い続けました。

それから約1か月がたち、男の子は他の子どもとも仲良くなり、サッカーをして一緒に遊ぶようになりました。そして、ついに彼は「学校に行きたい!」と言ったのです。この男の子は今学校で勉強をしています。」

～子ども達の夏休み～



タイ・カンボジアは4月・5月が1年間の中で最も暑く、子ども達の学校はお休みになります。今年の夏休み、タイ・ハッピーホームのティーンエイジャーの男の子たちがカンボジアのホームを訪ねました。（カンボジアのホームへはタイ、バンコクより車に乗れば、3時間で到着します。）

男の子たちはカンボジアの子どもと協力して、雨季に備え、敷地内にある池の排水工事作業のお手伝いをしました。ローズさんをはじめ、他のスタッフが子ども達に教え続けていること、それは困っている人、必要がある人を助ける心です。

～タイ 2階建ベッド購入費用をお渡ししました～

ローズさんとの何気ない会話の中で、タイのトンホームの子ども用2階建てベッドが足りないことが分かりました。15人の子ども達が床に寝ているとのことでした。また、雨季の蚊よけ対策として、蚊帳もいくつか購入が必要です。a cup of water は年2回、ハッピーホームへ送金を行っていますが、送金予定分のうち20万円を先にローズさんへお渡ししました。（二階建ベッド約10000円×8台、蚊帳、その他子ども達の必要のため。）

雨季に増える蚊は、デング熱やマラリアなどの病気を媒介するため、蚊対策も油断できません。

またローズさんは、ベビーホームの赤ちゃんを蛇から守るため、蛇除けになる植物は日本にないか探されていました。さすが緑に囲まれたタイの農村です。私達には想像もつかない必要が現地では色々あることに改めて気付かされました。



～カンボジア ニット帽 購入者募集中～

HIVに感染した女性と家族のためのホープセンターでは、女性達がつくったニット帽の試作品が完成しました！！素材はニュージーランドの100%ウールです。皆さんに喜んで使っていただける用、品質と素材にこだわっています。売上は女性の収入になるとともに、他の女性への支援を行うために用いられます。あなたもこの支援の輪に加わりませんか？カンボジアからの輸入は50個～なので、販売方法を模索中です。また協力していただける企業の方々を探しています。



カンボジアの人々と日本の私たちをつなぐ帽子

6月4日（金）から6日間、ローズさんが大阪に来られ、支援者の方々や教会メンバーの方々と良い時を持ちました。

4日の朝7：00関空着の出口で待っていてもなかなかローズさんは現れません。でもタイ航空のスケジュールはすでに到着、と出ています。いつもの私のドジさがこの時も。。。私は違う出口で待っていたのです。やっとのこと10か月ぶりの再会を感謝し、滞在先の教会へ向かいました。

今回ローズさんは、支援者の方々に感謝を表したい、自分が少しでも皆さんの祝福になれば、という願いで来られました。5日（土）の昼食会では、ハッピーホームの現状を生々の声で聞くことができ、置かれている現状全部が喜ばしい知らせではありませんが、どのように私たちがこれから応援していけるのかというヒントになりました。

お話のひとつは、ハッピーホーム設立30年の間に、孤児の子供たちが父なる神様と共に成長し、巣立ち、ハッピーホームが広がり次の世代の若いスタッフに受け継がれている事でした。ローズさんは何人のお孫さんを持っているのでしょうか？

また、タイ・カンボジアの社会から、子供たちがいないがしろにされている現状です。それはこれからも続くかもしれませんが、神様の目は、御腕は、彼らに一番に注がれているのではないかと思わされました。

ローズさんの観光は、近江八幡、高槻の街、梅田の家電量販店などでした。なぜか、屋根瓦にも興味を示していました。建物をたくさん建てて来られたからでしょうか。

この度、ご協力下さった皆様、本当に有難うございました。

スタッフ 福原みどり

特定非営利活動法人 a cup of water

TEL & FAX 075-962-4249 メールアドレス newlife@ht.holy.jp

〒618-0022 大阪府三島郡島本町桜井4丁目23-24 ニューライフキリスト教会内

ホームページ <http://newlife.holy.jp/acupofwater/index.html>

会費・寄付金など 郵便振替 00950-8-107412

三井住友銀行 高槻支店 普通2680218

☆会員になって下さる方を募集しています。月々のご支援は1口¥1500～

連絡先をFAXかメールにてご連絡くだされば、こちらから詳しい資料をお送りします。